

観光地における歩行者流動特性について

(研究期間：平成28年度～平成30年度)



都市研究部 都市施設研究室 室長 中西 賢也 主任研究官 吉田 純土

(キーワード) 観光まちづくり、歩行者流動、歩道幅員、都市交通

1. はじめに

観光関連施策が推進される中、一部の観光地においては街路空間における歩行者の混雑が深刻になっている。本研究においては歩行者の移動目的に特徴を有する地域において観測を行い、歩行速度、歩行密度のデータを収集したうえで、交通容量を算出し、「観光」目的の歩行者が多い地域と「通勤」目的の歩行者が多い地域等とを比較した。

2. 観測の対象

通勤目的の歩行者が多い歩道として、平日朝の新橋駅付近及び勝どき駅付近、買い物目的の歩行者が多い歩道として、平日夕方の新宿三丁目駅付近及び京成上野駅付近、観光客が多い歩道として浅草雷門付近、鎌倉小町通りを対象に勾配や段差のない単路部において歩行密度と歩行速度の観測を行った。表に観測箇所等の詳細を示す。

表 観測箇所

観測地点名	想定される歩行者の主な移動目的	観測地点所在地	観測日(年/月/日 [曜日])	観測時間	天候
新橋	通勤	港区新橋 1-18-16	2015/11/24 [火]	8:00~9:00	曇
勝どき	通勤	中央区勝どき 2-5-8	2016/12/5 [月]	8:00~9:00	晴
新宿	買い物	新宿区新宿 3-30-13	2016/12/5 [月]	18:00~19:00	曇
上野	買い物	台東区上野公園 1-60	2016/12/5 [月]	18:00~19:00	曇
浅草	観光	台東区浅草 1-2-2	2018/3/10 [土]	12:00~13:00	晴
鎌倉	観光	鎌倉市小町 2-7-24	2018/2/11 [日]	9:00~17:00	晴

3. 観測結果

図1に示す通り、「通勤」目的の歩行者が多い歩道は、概ね0.5(人/m²)以下の低密度下において2.0(m/s)以上の高速で移動する歩行者が一定数見られる一方で、「観光」目的は、低密度下においても高速で移動する歩行者がほとんど見られず、「通勤」と比して分散が小さく、全体的に速度が遅い。

図1に関して、移動目的別に速度と密度の回帰分析を行い、得られた回帰式を用いて歩行密度と通行量の関係を示すと図2のようになる。

この結果から、観光目的の歩行者が多い歩行空間においては、通勤目的の歩行者が多い歩行空間と比べ、より低密度下において渋滞流が発生し、交通容量が小さいことが明らかになった。

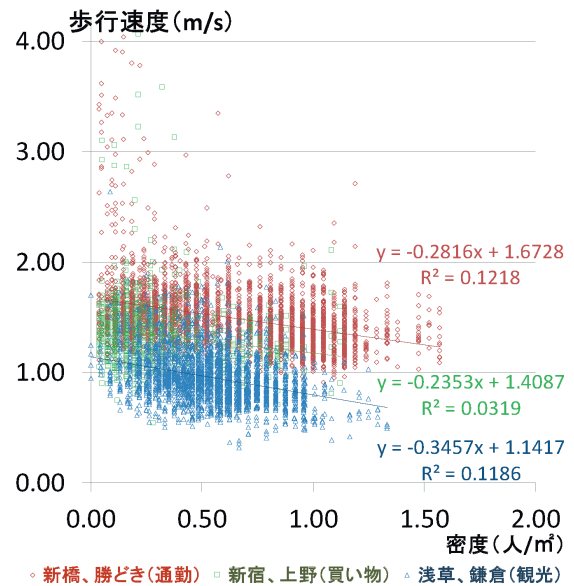


図1 移動目的別の歩行密度と歩行速度の関係

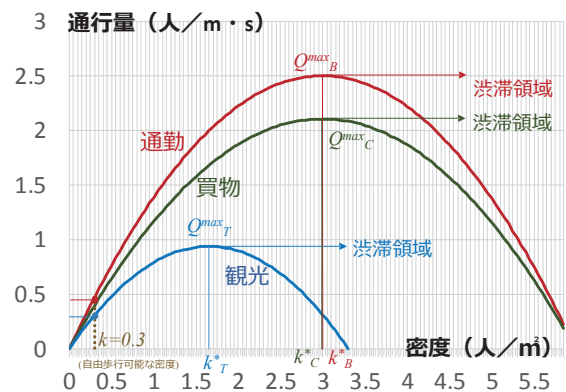


図2 移動目的別の歩行密度と通行量の関係

☞ 詳細情報は [こちら](#)

1) 第38回交通工学研究発表会論文集 No. 38